

現代日本における「墓地空間」に関する研究

指導教員 加茂 紀和子 教授

竹田 幸介

1. はじめに 現代日本は、ライフスタイルや価値観の多様化に伴い、檀家の減少や無縁者の増加の傾向にある。また都市部では墓地用地の不足や地価高騰といったことも人々の「墓」に対する考え方やあり方に様々な方向を見せる要因となっている。特に墓地を集積化した納骨堂が増加しており^{注1}(図1,2)、建築作品としても評価されることが多くみられるようになってきている。本研究では、納骨堂や墓地に併設された建築及び外構を「墓地空間」と名称し、その空間構成と言説の分析から、その空間性と言説との関係性を明らかにすることを目的とする。

2. 研究概要 建築専門雑誌『新建築』において、創刊1925年から2015年までに掲載された、全22件の「墓地空間」を研究対象とする^{注2}(表1)。その対象の図面や建築写真を分析し、建築構成の類型化を行うとともに、それぞれの建物における言説を分析する。その各類型と言説の関係を調べ、その類型の意味、全体的な位置づけを把握する。

3. 「墓地空間」の類型化

3.1 構成要素の抽出と類型化 空間構成を〔納骨形式〕〔建築形態〕〔配置〕の3つの視点から分析し類型化を行う(図3)。納骨場所と墓参場所が同一または分離を〔納骨形式〕、建築の形状や開閉具合を〔建築形態〕、敷地や建築内で導線の特定や演出等の特徴的な操作を〔配置〕とする。この3要素から対象作品を10のグループに分けた(図4)。

3.2 言説の抽出と類型化 [柱]や[光]などの実体的な空間要素を《要素群》、[明るい]や[浮遊感]などの現象的な空間の状態を語っているものを《状態群》、[あの世]や[森]などの空間のあり様や空間に対する観念や概念の記述を《思想群》、[都市]や[公共性]に関する記述を《社会群》、[祈る]や[入る]などの人間の行動を示す記述を《行動群》という5つの群に分けた(図5,6)。

4. 分析 図4に示した各形態グループの作品の半数を超え出現する言説を共通言説とし、その共通言説と形態グループの関係性をまとめた(図7)。また形式や形態、配置と言説の関係をみると、【モニュメント型】を含む作品は〈都市〉について多く述べられ、【結界型】を含む作品では〈抽象〉について多く述べている等、各構成要素毎にも共通言説が見られる。このことから、各構成要素と共通言説の関係性についても考察対象とした(図8,9,10)。

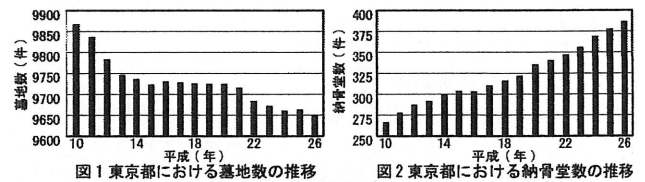


図1 東京都における墓地数の推移 図2 東京都における納骨堂数の推移

表1 研究対象一覧

番号	掲載年号	作品名	番号	掲載年号	作品名
①	1956年07月	常在寺納骨堂	⑫	2000年11月	浄土宗 鶴屋山寺九品寺山門・納骨堂
②	1965年02月	鎌倉妙本寺釈迦堂	⑬	2004年02月	合葬墓の参集所
③	1970年12月	安楽寺納骨堂	⑭	2006年05月	渋谷東福寺涅槃堂
④	1973年06月	常泉寺八王子霊園	⑮	2006年10月	鎌倉の納骨堂
⑤	1973年12月	所沢霊園 礼拝堂・納骨堂	⑯	2010年08月	長楽寺納骨堂
⑥	1982年06月	富士の納骨堂	⑰	2013年07月	竹林寺納骨堂
⑦	1984年07月	日泰寺霊堂	⑱	2014年07月	狭山の森礼拝堂
⑧	1987年06月	西園寺無量寿堂	⑲	2014年09月	新宿瑞穂光院白蓮華堂
⑨	1993年07月	多摩霊園納骨堂	⑳	2014年10月	無量光 明園寺納骨堂清浄殿
⑩	1999年02月	専修寺納骨堂	㉑	2014年10月	總持寺永代供養施設「無憂樹林」
⑪	2000年11月	阿彌山瑞雲寺位牌堂	㉒	2015年07月	瀧泉寺八聖殿

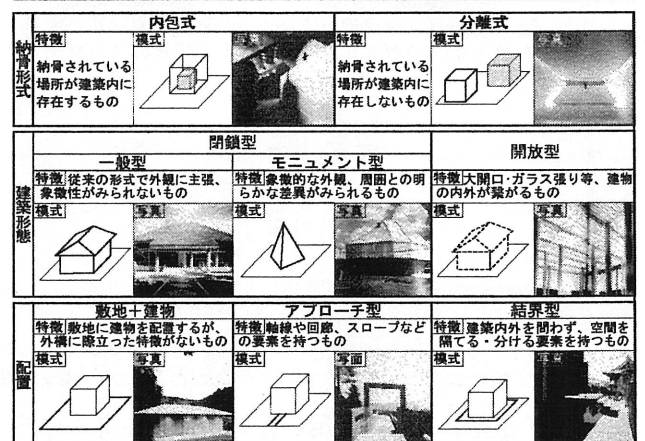


図3 類型化一覧

図4 形態グループ分け一覧

配置	内包式			分離式		
	一般型	モニュメント型	開放型	一般型	モニュメント型	開放型
敷地+建物		①③⑭ (3件)	⑧⑬⑯⑰ (5件)		⑪ (1件)	⑫⑱ (2件)
アプローチ型	⑤⑭ (2件)	⑦⑨ (2件)		④ (1件)		
結界型	②⑬ (2件)	⑬⑱ (2件)				
アプローチ型 + 結界型	⑥⑮ (2件)					

図4 形態グループ分け一覧

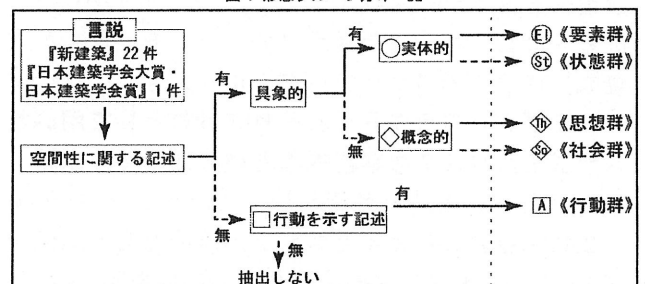


図5 言説抽出方法

《言説群》記号抽出 凡例 (作品番号 抽出した言説)

《要素群》	⑤	178	⑥	門	⑦	列柱	⑩	自然光	⑬	水	⑳	葉擦れの音
《状態群》	⑨	134	⑪	浮遊感	⑬	…揺らぎらせて…	⑮	…不安なような…				
《思想群》	⑫	58	⑬	大きな墓	⑰	現世と来世	⑱	…人の生と死を繋ぐ…				
《社会群》	⑲	22	⑳	たまり場	㉑	…都市において…	㉒	街に向かつて…				
《行動群》	㉓	87	㉔	入る	㉕	礼拝	㉖	…生に感謝する…	㉗	…対話…		

図6 抽出語句の類型化と凡例

5. 考察

5.1 グループごとに見る言説との関係 各形態グループに特徴的な共通言説が現れ、空間のイメージの差を表している。例えばグループA,B,Cでは、同じ〈都市〉〈墓〉という共通言説が現れるが、Aでは〈公共〉〈集まる〉、B,Cでは〈別世界〉が共通し、それぞれ特有の《思想群》の共通言説が現れる。同じ〈都市〉における「墓地空間」であるがその空間性は“公共的な空間”と“個人的に関わる空間”で大きく異なることがわかる(図7)。

5.2 形式と言説の関係 従来の【内包式】が(追悼)の場であるのに対し、【分離式】は納骨場所が建築内に無いことにより、〈礼拝〉の場としての意味が強い。また〈礼拝〉とは、“神仏に対する行為”^{注3}である。このことから【分離式】の内部空間は、設計者のイメージを〈象徴〉した空間であることを重要視していると考えられる(図8)。

5.3 形態と言説の関係 【モニュメント型】では〈都市〉〈社会〉〈墓〉という共通言説が現れ、基壇や香台といった“墓”に関する〈インテリア〉が現れた。このことから、〈都市〉の中に存在する〈別世界〉を内包する〈墓〉であると考えられる。一方【開放型】では具象的な空間性が語られることが多い。〈屋根〉や〈素材〉を操作し、周囲や自然と〈調和〉する空間性を持つものと考えられる(図9)。

5.4 配置と言説の関係 【敷地+建物】では〈公共〉という《社会群》は現れるが、《状態群》《行動群》《思想群》の共通言説は現れなかった。このことから〈公共〉的な空間であると考えられる。【アプローチ型】では〈間〉としての空間性、【結界型】では〈生死〉を〈抽象〉的に表現した空間性であると考えられる。しかしどちらも〈別世界〉とし、〈移動〉や〈進入〉などの動的行動によって、空間を意味づけていると考えられる(図10)。

6. 結論 本研究の知見を以下にまとめる。

1. 図4のように「墓地空間」を様々な形態グループに分類することができる。また各形態グループを特徴づける共通言説が存在する。2. 現代社会に対する様々なあり方を探るものや、設計者の“思想”や“死生観”が強く現れるものがある。3. 【分離式】は、従来の〈追悼〉の場から〈礼拝〉の場へと変わり、設計者によって空間が〈抽象〉化され、新たな「墓地空間」のあり方が生み出されている。4. 〈光〉は、形式・形態・配置を問わず共通してテーマとされる要素であるが、その内容はそれぞれ異なる。以上が本研究で明らかになった「墓地空間」の空間性である。今後、今回考慮しなかった都市部や郊外といった立地条件との関係性を含め、「墓地空間」の空間性を探っていきたいと思う。

形式	形態	配置	群	共通言説	作品
一般型	アプローチ型	敷地+建物	①	〈光〉 / 〈自然〉	⑤ ⑩
			②	〈静けさ〉	
			③	〈象徴〉	
	結界型	敷地+建物	④	〈光〉	⑥ ⑫
			⑤	〈間〉	
			⑥	〈移動〉 / 〈進入〉	
内包	敷地+建物	敷地+建物	⑦	〈インテリア〉	A ① ③ ⑭
			⑧	〈墓〉	
			⑨	〈都市〉 / 〈公共〉	
	アプローチ型	敷地+建物	⑩	〈光〉 / 〈柱〉 / 〈回廊〉	B ⑦ ⑨
			⑪	〈積層〉	
			⑫	〈霊〉 / 〈別世界〉 / 〈墓〉	
結界型	敷地+建物	敷地+建物	⑬	〈都市〉	C ⑮ ⑰
			⑭	〈墓参〉	
			⑮	〈光〉 / 〈水〉 / 〈階段〉	
開放型	敷地+建物	敷地+建物	⑯	〈光〉 / 〈屋根〉 / 〈素材〉	⑧ ⑩ ⑮ ⑰ ⑲
			⑰	〈調和〉 / 〈明るい〉	
			⑱	〈光〉 / 〈素材〉	
分離	開放型	敷地+建物	⑲	〈光〉 / 〈素材〉	⑬ ⑱
			⑳	〈礼拝〉	
			㉑	〈進む〉	

図7 形態グループごとに見られる共通言説

形式	言説	①《要素群》	②《状態群》	③《思想群》	④《社会群》	⑤《行動群》
内包式	〈光〉					〈追悼〉
分離式	〈光〉	〈小さい〉	〈象徴〉			〈礼拝〉

図8 納骨形式ごとに見られる共通言説

形態	言説	①《要素群》	②《状態群》	③《思想群》	④《社会群》	⑤《行動群》
モニュメント型	〈インテリア〉			〈別世界〉	〈都市〉	
開放型	〈光〉 〈屋根〉 〈素材〉	〈明るさ〉	〈調和〉			

※一般型は【アプローチ型】【結界型】だけを含み、配置の分析と重複するので省略とする

図9 建築形態ごとに見られる共通言説

配置	言説	①《要素群》	②《状態群》	③《思想群》	④《社会群》	⑤《行動群》
敷地+建物	〈光〉				〈公共〉	
アプローチ型	〈光〉			〈別世界〉		〈移動〉 〈礼拝〉
結界型	〈光〉 〈水〉	〈抽象〉		〈別世界〉 〈生死〉		〈進入〉

※【複合型】は少数により、【アプローチ】と【結界】にそれぞれ重複して入れる。

図10 配置ごとに見られる共通言説

注釈

- 1) 厚生労働省衛生行政報告例(生活衛生関係) <http://www.mhlw.go.jp/> より掲載。
- 2) 1973年12月号の「所沢聖地霊園 礼拝堂 納骨堂」については『新建築』内に空間性について十分な記述がみられなかったため、主集48年日本建築学会大賞・48年度日本建築学会賞を参考にした。
- 3) 祈りとは、神などの人間を超える神格化されたものに対して、何かの実現を願うことである。三省堂例解新国語辞典「祈り」の項1

参考文献

- 1) 『新建築』、新建築社、1925/～2015/12
- 2) 『葬祭場・納骨堂 地域施設としての建築課題(建築設計資料)』、建築思潮研究所、1994/3
- 3) 『葬祭場・納骨堂2 別れの場に相応しい空間の創造(建築設計資料)』、建築思潮研究所、2007/9
- 4) 『祖先祭祀の展開—日本民俗学の課題—』、田中久夫、1999/2
- 5) 『慰霊・追悼・顕彰の近代』、矢野敬一、2006/3
- 6) 『日本の葬送・墓地—法と習慣—』、森茂、2013/1